

2017年3月期決算に関する電話一斉取材 主なQ & A

[北海道新幹線]

Q： 北海道新幹線の2018年3月期計画は△10億円とのことだが、その根拠は。

A： 北陸新幹線は開業2年目である2017年3月期に13%程度減少したことから、それを参考に北海道新幹線も13%程度減少する計画とした。その金額が△10億円である。

北海道新幹線は、2017年3月期は計画をかなり上振れて推移していたが、第4四半期に入ると、計画対比の増加幅が小さくなったことも考慮したものである。

[運輸収入]

Q： 2018年3月期の新幹線定期外の基礎について、対前年+50億円を計画しているとのことだが、これはどのように見込んだものなのか。

A： 新幹線定期外の基礎トレンドは対前年100.9%を見込んでいるが、これは実質GDP成長率の見通しを参考に、経験則に基づく感応度を考慮して算出したものである。

[IT・Suica 事業]

Q： 今回新設したIT・Suica事業の営業収益・営業利益について、2017年3月期の実績及び2018年3月期の計画は。

A： IT・Suica事業については、今回から社内管理セグメントとしてIRの場で開示していく。2017年3月期の営業収益は外部売上で444億円、営業利益は85億円である。なお、2018年3月期の計画については、開示していない。

[成長投資]

Q： 3年間の成長投資が7,000億円という計画であるが、主な用途は。

A： 3年間の成長投資7,000億円を運輸事業と非運輸事業に分類すると、運輸事業が約34%、非運輸事業が約66%である。非運輸事業では、大規模ターミナル駅開発として千葉駅、横浜駅、東京駅、仙台駅、渋谷駅などが主な用途である。また、品川駅車両基地跡地開発では、まだビルを建設するという段階ではないが設備投資が出てくる。さらに、今期開業するさいたま新都心ビルの設備投資も発生する。

一方、鉄道事業では、現在は1編成だけが導入されている山手線E235系を、順々に投入していく予定であるが、その一部を成長投資とすることが主な用途である。

以上